

## 完全無処理サーマル CTP プレート『SUPERIA ZP』の発売を発表 「JP2015」初日に記者会見

2015年5月29日

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ（以下 FFGS）は、『JP2015』会期初日の5月14日、インテックス大阪において記者会見を開き、完全無処理サーマル CTP プレートの新製品『SUPERIA ZP』の発売を発表しました。

本製品は、ET-S、ET-SH、XZ-R に続く第4世代の無処理プレートで、定評ある立ち上がり性能がさらに高まるとともに、刷りやすさ・汚れにくさなどの印刷安定性も一段と向上しているのが特長です。完全無処理ならではの全方位的な省資源効果と、優れた瞬発力・品質性能を同時に実現しています。

会見では、冒頭、代表取締役社長・渥美守弘が挨拶し、新たな省資源ソリューション『FUJIFILM SUPERIA』のコンセプトについて「戦略的視点からの省資源の追求によって、数字で見える明確な利益向上効果を生み出し、オフセット印刷の“儲け”につなげていく」と説明。そのうえで、『SUPERIA ZP』の位置付け・特長について、「SUPERIA で追求している“5つの省資源”すなわち省材料・省工数・省エネルギー・省排出・省ウォーターのすべてに寄与する、オフセット印刷用 CTP の究極のソリューションと考えている。“迅速な印刷立ち上がり”と“抜群の刷りやすさ”がさらに進化し、省資源効果も一段とレベルアップしている」と述べました。

さらに、FFGS の製品開発姿勢について触れ、「昨年、吉田南工場の開発・生産機能を垂直統合し、研究・開発から製造、販売、サポートまでの一貫体制を構築。お客さまのニーズをいち早くキャッチし、それをタイムリーに製品開発へと反映していけるよう努めている。今後も、印刷会社の皆さまの収益性改善・体質強化、そして業界の発展に、しっかりと貢献していきたい」と結びました。

続いて、技術一部部長・奥野敬が『SUPERIA ZP』の特長をより詳しく解説。ET-S、ET-SH、XZ-R と続くこれまでの無処理プレートの開発経緯や「国内約450社、世界約3,000社」という導入実績などを紹介したうえで、『SUPERIA ZP』に投入された新技術とそれによるメリットなどについて説明しました。

『SUPERIA ZP』では、独自の支持体表面処理技術「MGV (MULTIGRAIN V)」に加え、新開発の「s-HDS (super Hydro Discrimination Surface) 技術」の採用により、非画像部界面の保水性能の最適化を図り、さらなる汚れにくさ、水幅の拡大を実現しています。

この新技術と、XZ-R で実績のある「RSS 技術」「FPD 技術」との相乗効果により、一段と高い機上現像性・印刷安定性を発揮し、「より素早い印刷立ち上がり」「刷りやすさ・汚れにくさの向上」といったメリットを提供します。

奥野は『SUPERIA ZP』がもたらす具体的な省資源効果について、「刷り出し損紙削減」「インキ量削減」「インキ乾燥性向上（納期短縮）」「印刷機稼働率アップ（印刷トラブルの削減）」などにより、5つの省資源（省材料・省工数・省エネルギー・省排出・省ウォーター）につながることを強調しました。



代表取締役社長・渥美守弘



技術一部 部長・奥野敬